

保護者 各位

南城市立知念中学校
校長 吉田 順太
(公印省略)

水難事故防止について（注意喚起）

日頃より、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、国内では川遊び中、県内ではスノーケリング中に水難事故が発生しております。令和6年5月には、南城市奥武島でも中学生による水難事故が発生しております。

本校においては、地域から、漁港で、遊泳禁止区域にかかわらず、泳いでいる危険行為の情報が寄せられ、水難事故防止等に係る「自らの命を守る」安全指導を行っています。

つきましては、保護者に皆様におかれましては、下記事項に留意の上、水難事故防止へのご理解ご協力をお願いいたします。

記

1. 水難事故防止について

- (1) 友達同士だけで海や河川等へ泳ぎに行かない（保護者や大人と一緒にいくこと）
- (2) 魚釣り等は友達同士で行かない（立ち入り禁止区域や危険な場所へは行かない）
- (3) 自然海岸ではなく、監視員のいるビーチで遊ぶ。
- (4) 海や河川等では、一人で行動しない。
- (5) 気象情報には注意し、波浪注意報等発表時には泳がない、近づかない。
- (6) 安全に海や河川等でレジャーを楽しむために、ライフジャケット等を着用する。
- (7) 携帯電話等の連絡手段を確保する。
- (8) 遊泳禁止区域で泳がない。

※漁港で小中学生が遊泳禁止にもかかわらず、泳いだり、飛び込んだりする危険行為の情報もあります。

2. 別添資料

- (1) 児童生徒、保護者の皆様へ 中学生用
- (2) 安全にレジャーを楽しむために（沖縄県警）

この件に関する問い合わせ
南城市立知念中学校
教頭：津波 善辰
TEL：098-948-1303

【保護者の皆様へ】 子供の海での事故防止について

令和5年から昨年にかけて、沖縄県内において、立て続けに子供（中高生）の遊泳や飛込みによる事故が発生しています。

その中には、1人が意識不明の状態、3人が死亡となる痛ましい事故も含まれています。

いずれの事故も監視員のいない自然海岸で子供達だけで遊んでいた事例です。

子供達だけで海に行った場合、危険な場所がわからなかったり、遊びがどんどんエスカレートして、最悪の場合、死亡事故となるおそれがあります。

海で遊ぶ際は、次のことを守るようにお願いします。

- ・ 子供達だけで海に行かない
- ・ 自然海岸ではなく、監視員のいるビーチで遊ぶ
- ・ ライフジャケットを着用する
- ・ 携帯電話等の連絡手段を確保する



安全にスノーケリングなどを楽しむ方法
が載っています ウォーターセーフティーガイド



Water Safety Guide

マリンレジャー中の事故発生人数が多い
場所が載っています 事故多発マップ



第十一管区海上保安本部

海の事件・事故は118番

【生徒、保護者の皆様へ】 海でのレジャー事故に注意しましょう

❗ 危ない行為はやめましょう

『度胸試し』で防波堤や橋から飛び込むことは**大変危険**です。
時には速い流れが発生する箇所もあります。
波が高い日や、風が強い日も海には近づかないようにしましょう。

【事件事例】

友人と橋から飛び込む遊びをしていたところ、潮流により漂流しその後救助された。2人は打撲による怪我を負った。

❗ リーフ波（引き波）に注意しましょう

岩と岩の切れ目は沖へ向かう速い流れが発生する可能性があります。

【事件事例】

リーフ近くで遊泳中、沖合に流されその後、発見されたが死亡が確認された。

❗ 自己救命策を確保しましょう

▶ 浮力の確保

ライフジャケットなどが有効的です

▶ 連絡手段の確保

携帯電話やスマートフォンで連絡手段を確保しましょう

▶ 海のもしもは**118番**



リーフカレントに注意！

リーフカレントとは？ リーフの切れ目からリーフの外へ流れ出す強い流れのことです。

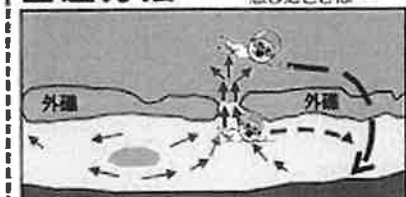


リーフカレント発生原因

波がリーフ内に打ち込んでいるとき

流出
リーフ内の水かさが増し、海水はリーフの切れ目から沖に流れ出す

回避方法



①流れに逆らわず真横と
平行に、流れを横切っ
て泳ぎましょう。
②リーフカレントを避け
てから一番近い陸地
を目指します。
③一番の回避方法は
リーフカレントに巻き
込まれないこと。
『河津リーフカレント情報』は、
第十一管区海上保安本部と
石巻海上保安部のインターネット・
ホームページから提供しています。

海上保安庁

検索



第十一管区海上保安本部

安全にレジャーを楽しむために

- 1 風向、潮流、離岸流、高波等の影響によって水難事故に遭う危険がある場所（場合）を利用しない。



- 2 複数での利用に努め、お互いに目を離さない。



- 3 過労、睡眠不足、飲酒、薬物服用の状態を利用しない。



- 4 ライフジャケットやウェットスーツなどの浮力体を必ず着用する。



- 5 器具等の正しい使用方法を習得し、使用前の点検・整備をする。



準備OK!

- 6 海洋危険生物への知識（被害防止方法、被害時の応急処置要領）を習得する。

